目次

はじめに 006

第1章 多様な仲間と足元から掘り起こす、世界のサステナビリティ 009

生まれた土地から〝美味しい〟を実現するために
……山本昌仁（たねやグループCEO・㈱たねや社長） 011
自然をお師匠さんに、生まれた土地の現場から 013／〝美味しい〟を実現するために 014／〝自分〟の集まる〝みんな〟と共に 016／境目はない。生きるが仕事。 019／あるがままを信頼する 022／点であっていい。種植えをしよう。 024／〝自分の人生〟を超えた世界を信じて 026／明日の「食」を守るため、農を、土を。前に、前に。 028

本当の無駄はどこにある？
……大原千鶴（料理研究家） 031
それなりをゆるして、あるものをいつくしむ 034／新しきも異なるものも、迎え入れて 037／人それぞれの、ご機嫌にある方法 039／つながりのうえに役立ち合って、迷惑をかけ合って 043／本当の無駄はどこにある？ 047

異なる世界が共にあるために
……渋澤 健（シブサワ・アンド・カンパニー㈱代表取締役） 051
馴染みがなくとも、世界で必要とされること 053／ビジョンを前に、お手上げになることはない。 054／法人という関係性から生まれ、育まれるもの 056／のびやかな主体性から、応答可能性をひらき合おう 059／未来に渡せる「正解」はあるんだろうか？ 062／生きて渡せるものがある 065／道は何処へ通じているか 066

グローバル社会を支える、内なるうつわと地域性
……朝倉圭一（民藝店「やわい屋」店主）・鞍田崇（明治大学 准教授） 071
多様にあるなか求められる「普通」という共通言語と僕らが求める「心をここにおく」実感 073／民藝という「我がごとにしていく」過程 076／持続可能な「開発」のあり方は多様にある。それができる時代。 081／地域が閉じているわけにはいかなくなった時代に、地域性は何処へゆくのか 083／プロセスという連続がつくる世界 087／かなしみという器 091／パズルは完成される必要があるだろうか？ 097

変わりながらも、守り継ぐもの——非日常を日常に
……伊住公一朗（㈱淡交社 代表取締役社長） 101
「おもてなし」は心地よさ 103／変わりながらも、守り継ぐもの 107／身近にある多様な切り口から、非日常を日常に。 109／「釜一つあれば」 112／平和を望む、終わりなき世界を一盌から 114

第2章 仏教とみる、私たちのウェルビーイング 121

1 人間とは何か——interbeing（インタービーイング） 122
親鸞が問い続けた「悪人」とは 123／内なる悪人性を照らして、ひらかれる道 126／interbeingへの気づきからはじまる変化 127

2 縁（Responsibility と Potential）——縁起（えんぎ） 130
応答する力（responsibility） 131／余白をのこす 133／私の知らない可能性（Potential） 134／他力のはたらくところ 136

3 徹頭徹尾、孤独にあって——独生独死（どくしょうどくし） 独去独来（どっこどくらい） 138
孤独にあって 138／たくさんの依存のうえに 139／同じ当事者として、生きていく 141／孤独をつなぐ縁こそ、わからなくていい 143

4 自然に還る——開発（かいほつ） 145
すべてをつなぐ日本人の自然観 146／縁が起こるところに現れるもの 147／開発に任せる力 150／一人ひとりが、開発僧に 151

5 変わり続けるウェルビーイング——安養（あんよう） 154
成長と、幸福と 154／日本の心と身体でみる〝ウェルビーイング〟 156／真ん中をゆく、安養へ向かう道 159

6 Leave no one behind〜誰一人取り残さない〜——摂取不捨（せっしゅふしゃ） 161
Leave no one behind 162／「摂取不捨」 163／悪人をこそ 165

7 自由になる——放下着（ほうげじゃく） 167
生活しやすく、生きづらい社会 168／椅子取りゲームから降りる選択肢 170／これから向かう先は何処？ 172

8 世界がぜんたい幸福にならないうちは——菩薩（ぼさつ） 174
個にあって、個をほどく 175／いまあるものから一手を取って 177

あとがき 180